

伝書



所長ご挨拶



このコラムは、私の日本研究センター所長としての第二期目における最初のコラムです。三年前に所長に着任した時の最初のコラムでは、

CJSミッションを遂行するうえで語学教員がいかに重要であるかについて記述しました。言語能力の習得は学生にとって必須であり、私はこの事実を認識する日本研究センターの一員であることを誇りに思っています。20年前に大志を持った言語講師の下で学ぶことなくしては、現在の日本の法律に関して教授し、執筆する代わりに救急車を追いまわす羽目になっていたかもしれません。個人的には、私は現在の状況の方がよほど望ましいと思います（そう思いませんか?）。日本研究センターの他の教員や卒業生も同じだと思います。

過去三年間、CJSメンバーとスタッフは、わが国最高の言語教育の場の一つとしての当センターの地位を維持するために時間と労力を割いてきました。以下に、現在継続されている素晴らしい出来事を幾つか掲げたいと思います。

- 当センターの語学教員が組織管理の役割も同時に果たすことを保証するため、江森祥子講師は2003年に語学教員として初めて（少なくとも近年において）協議員に就任しました。江森講師は最近、協議員として三年の任期の最終年度を終了しました。秋には、日本語科学科長の岡まゆみ講師がその席を引き継ぎました。

- この三月、岡まゆみ講師の尽力により、CJSはアン・アーバーで第18回米国中西部大学連合日本語教師会を開催し、全米から120人の参加者が出席しました。岡講師はまた、ミシガン大学の講師用日本語教授法夏期講座の創立者でディレクターでもあります。

- CJSは、2005~2006学年度中に日本語を勉強した380人の生徒が日本語だけで会話することが要求される（そして、その代わりに無料のピザが支給される）「ランゲージ・テーブル」に参加するために資金援助をしました。

- CJSは、二年継続してミシガン・ジャパン・クイズ・ボウルを主催、22の学校から300人以上の日本語を学んでいるK-12（幼稚園~高等学校）生徒が参加し、地域の日本語教員と日本語の生徒との交流を深めました。このイベントに対する認識は年を追って高まりつつあります。

- 昨年度、CJSはミシガン大学の語学リソースセンターおよび三重大学の教育学部と共同で、大学生が対象言語で各種主題をビデオ会議により話し合う機会を提供しました。この実験的プログラムへの参加者は多く、現在プログラムの拡張が進んでいます。

新学年度を迎えるに当たり、われわれの教育の場をさらに充実させ、成長させますますの機会があることを期待します。

所長

マーク・D・ウエスト (Mark D. West)

出版会より

オフィスを移動しました!

出版会は再度オフィスを移動しました。皆、新ホームが永住の地となることを祈っています。電話番号とファックス番号は以前と同じです。新しい所在地は: Center for Japanese Studies Publications, The University of Michigan, 1007 E. Huron Street, Ann Arbor, MI 48104-1690です。

出版会では、四つのオンライン出版物を新規に掲載しました。二つの絶版本モノグラフ、スチュアート・ガセリー (Stewart Guthrie) 著の『A Japanese New Religion: Risshō Kōsei-kai in a Mountain Hamlet (日本の新しい宗教: 山村における立正佼成会)』とエドワード・ケイメンズ (Edward Kamens) 著の『The Three Jewels: A Study and Translation of Minamoto Tamenori's Sanbōe (三つの宝石: 源為憲の三宝絵)』と、絶版書である島尾敏雄著作、キャサリン・スパーリング (Kathryn Sparling) 訳の『“The Sting of Death” and Other Short Stories (死の棘とその他の短編)』が、現在オンライン検索でき、ダウンロード可能です。以上の本は出版会のモノグラフ・シリーズ (ミシガン日本研究シリーズ) 1番および2番、論文シリーズ (日本研究におけるミシガン論文シリーズ) の12番として登録されており、個人やクラスでの使用に対して無料で提供されます。出版会は全ての絶版文献をオンラインで利用できるようにする意向です。各シリーズのウェブページで特定の本が見つからない場合は、<http://www.hti.umich.edu/c/cjs/> を参照ください。

出版会はさらに、ミシガン・クラシック・オンラインに新しい著作、デヴィッド・ボード

第11ページに続く

目次

図書館
司書より 2



トヨタ客員
教授より 2



センター
催し物 3



これまでの
催し物 4

教員・アソシエート
短信 6

学生・卒業生
短信 7



お知らせ 9

カレンダー 10

図書館司書より

ミシガン大学のアジア図書館を含む図書館システムは、近年多くの変化を経験しています。現在図書館が面する最大の困難は、州基金の減少により引き起こされた予算削減です。図書館と司書は、ミシガン大学の全米トップのアジア図書館の一つとしての地位を維持するために最善の努力を払っていますが、基金の減少はその障壁となっています。

本機関紙にこの問題点を喚起する理由は、中国、日本、およびコリアの司書(CJK)の皆さん、およびCJK語学専門員、教員、そして大学院生の皆さんにアジア図書館のコレクションへの援助を続けることを奨励することにあります。皆さんからの援助により、アジア図書館はその最高峰コレクションの地位を維持し、全米におけるアジア研究の焦点として機能し続けることができるのです。

アジア図書館日本部部长
仁木賢司

2005年~2006年トヨタ招聘客員教授からの挨拶

CJSへのさよなら

2006年7月13日

今から二日後には、イスラエルの自宅に戻っているというのは信じがたいことです。新たな紛争と政情不安をわずらっている地に戻ることは、そのあわただしい日常から離れ、当地で実りある一年を過ごせたことをますます素晴らしく感じさせます。私はこの一年間、トヨタ招聘客員教授として日本研究センターで日本の「カリスマ主婦」の研究を行い、人類学的観点から近代日本女性に関する授業を教授しました。

人類学者であることは、学者にとって非常に有利なことです。と言いますのも、いかなる状況においても参加者としての観察を応用でき、自分自身ならびに自己の学問についても学ぶことができるからです。私は、ミシガン大学の私の受講生たちを通じてアメリカのアカデミック・システムについて学ぶと同時に、若者がどのように考え、世界をどのように見ているかを学びました。我々の性別、人種や異文化間・異人種間の婚姻に関する(時には)興奮した会話は、素晴らしい図書館で過ごした時間やCJSの私の居心地よいオフィスで過ごした時間と同じく貴重な時間でした。また、同僚との生産的な会話や、「カリスマ主婦への道(way to become) a charisma housewife)」の「秘密」を私と共に研究した才能に富むリサーチ・アシスタント達との話も忘れがたい経験です。これらの経験により私自身が「カリスマ主婦」になるかどうかは疑問ですが、日本社会や文化、そして今日の日本人女性に関する知識を深められたことは確かです。

別離はいつも困難ですが(少なくとも私自身にとっては)、アン・アーバーやCJSのように私をくつろがせるためにあらゆる努力をしてくれた場所との別離はなおさらです。この機会に、CJSファミリーおよび「トヨタ客員教授」の一員となれたことに感謝の辞を述べさせていただきます。この関係が、この一年に留まらず長く維持されることを切に希望しています。

オフラ・ゴールドステイン=ギドニ教授

2005年~2006年日本研究センタートヨタ招聘客員教授
テルアビブ大学社会学・人類学・東アジア研究準教授



CJSの2005-2006年TVPお別れ会。左からオフラ・ゴールドステイン=ギドニ教授、ジェーン・オザニッチ(プログラム・アシリエート)、ジュリー・ワインダー(前)学務コーディネーター)、サンドラ・モラスキー(オフィス・アシスタント)、G・P・ウィットピン(アウトリーチ・コーディネーター)、マーク・ウエスト所長、およびジェニファー・ロバートソン人類学教授。深澤ゆり撮影。



センター催し物



川人貞史
教授

2006~2007年トヨタ招聘 客員教授

CJSは9月13日に2006~2007年トヨタ招聘客員教授である川人貞史教授の歓迎会を催しました。川人貞史教授は、東北大学大学院法学研究科教授(現代政治分析担当)で、今秋から「日本政治学」と題されたミニ・コースを教えます。また、2007年2月1日、正午にヌーン・レクチャー・シリーズの一環として講演を行います。

2006年秋の映画シリーズ

CJSの秋の映画シリーズ、「日本コネクション・フェスティバル・オン・ツアー」では、この4月にドイツのフランクフルト市で開催された日本コネクション・フィルム・フェスティバル (<http://www.nipponconnection.de/>) で上映された新作の独立系映画や短編映画が上映されました。シリーズは「電車男 (Train Man)」(村上正典監督)の9月15日上映を皮切りに11月10日まで続き、無料で一般公開されました。映画は全てローチ・ホール (Lorch Hall) のアスクウィズ・オーデトリウム (Askwith Auditorium) で上映されました。詳細はCJSのウェブサイト <http://www.ii.umich.edu/cjs/> をご覧ください。



Nippon Connection
●●● Festival On Tour

2006~2007年ヌーン・ レクチャー・シリーズ

CJSの2006~2007年ヌーン・レクチャー・シリーズではバラエティに富む講演が予定されています。今秋は9月28日を最初に、インドラ・リービ (スタンフォード大学)、テイラー・アトキンズ (ノーザン・イリノイ大学)、ジェームス・バーソロミュー (オハイオ州立大学)、ウィリアム・マルム (ミシガン大学)、エミイ・ポロボイ (プリンストン大学)、ダニエル・ボッツマン (ノースキャロライナ大学チャペル・ヒル)、ウィリアム・ラフレール (ペンシルベニア大学)、ローリ・ミークス (サザンカリフォルニア大学)、およびピーター・グリリ (ボストン日本協会) の9人による講演が行われました。ピーター・グリリの講演の後には、同氏の共同制作による映画「光と音の詩 武満徹と映画音楽」が上映されました。詳しくは第10ページのカレンダーをご覧ください。また、3月15日に予定されているベアテ・シロタ・ゴードンの講演を含む冬季のスケジュールも第10ページに掲載されています。



電車男
写真: Viz Pictures 提供



今後のイベント
の全日程は
第10ページの
カレンダーを
ご覧ください。

2007年餅つき

CJSの第三回年次餅つき大会が1月6日午後1時から4時までインターナショナル・インスティテュート・ギャラリー (SSWB) で開催されます。伝統的な餅づくり、お餅試食、折り紙、日本のゲーム、書初め、紙芝居など多様な行事が行われます。イベントは一般公開され、参加無料です。

参考文献ワークショップ

CJSとミシガン大学の 코리아研究プログラムは、フランク・ジョセフ・シュールマンによるワークショップを2007年1月17日に共同で開催します。シュールマン氏はアジア研究参考文献制作、編集およびコンサルティングを行っており、「日本と韓国に関する西洋語参考文献の編集と評価」と題するワークショップを1644室 (SSWB) で提供します。時間は午後1時半から3時半です。

ベアテ・シロタ・ゴードン CJS講演

2007年冬季ヌーン・レクチャー・シリーズの一環として、3月15日にベアテ・シロタ・ゴードン (ニューヨーク在アジアソサエティの前パーフォーミングアーツ・フィルム・レクチャー部ディレクター) の講演が行われます。この特別講演の内容は「新日本憲法における女性の権利条項起草」。場所と詳細はCJSのウェブサイトをご覧ください。

こ れ ま で の 催 し 物

第18回年次米国中西部 大学連合日本語教師会

日本研究センターの支援の下にアジア言語文化学部の日本語科が企画した第18回年次米国中西部大学連合日本語教師会 (CATJ) が、ミシガン大学で2006年3月4~5日に開催されました。

1988年以来、「ビッグ10」大学とその他の中西部の大学の日本語インストラクターは、意見と経験を交換し、日本語プログラムを向上するためにCATJ会議を開催してきました。今年度は、「日本語教授の全米5C基準: コミュニケーション、コネクション、コミュニティ、コンパリソンとカルチュア」というテーマに基づき、中西部だけでなく全米から120人以上の日本語教師や専門家が参加しました。二日間の会議中、三つの同時パネル討論会形式で合計32のプレゼンテーションが行われました。

会議の初日には、日本語教師連盟会長を務めたプリンストン大学の牧野成一教授が「日本語と日本文化の窓としての複数形マーカ―の『たち』」と題された基調講演をしました。また初日の午後には、日本語をアドバンスト・プレースメント・テストに加えるという日本語教師連盟の目標に関連して、「日本語アドバンスト・プレースメント」と題されたパネルディスカッションが行われました。

会議の二日目には、参加者はコンピューターを使用した言語学習の利用と実践

に関して意見交換をしました。また、会議には三つの主要日本語教科書の著者、當作靖彦教授 (カリフォルニア大学サンディエゴ、著書「Yôkoso! (ようこそ!)」、畑佐由紀子教授 (アイオワ大学、著書「Nakama (なかま)」)、そして野田真理教授 (オハイオ州立大学、著書「Japanese: The Spoken Language (日本語: 話し言葉)») の三者が出席しました。会議を通じて主な日本語教師が集合し、ミシガン州の高校と大学における日本語教師間の交友が深まる結果となりました。

会議の日程と講演の要約はウェブサイト <http://www.lsa.umich.edu/asian/japanese/catj/index.html> で閲覧できます。第18回年次CATJ議事録も刊行されています。お求めをご希望の方は、ミシガン大学アジア言語文化学部日本語科学科長岡まゆみ (mayoka@umich.edu) までご連絡下さい。

第3回年次アン・アーバー・ブックフェスティバルのインターナショナル・パビリオン

アン・アーバー・ブックフェスティバルが誕生した時から、ミシガン大学インターナショナル・インスティテュート (II) は、

CJSのコーディネーションにより、同フェスティバルのストリートフェアに参加してきました。今年度、IIのインターナショナル・パビリオン提供により、グループ「みやび」の音楽 (琴と尺八)、アフロアメリカン・ストーリーテリング、ロシアのフォークミュージック、日本の詩 (ウェスタン・ミシガン大学日本語助教授ジェフリー・アングルス) の訳とパフォーマンスによる)、中国の詩、そして国際児童工芸が公演されました。以上に加え、IIセンターは世界各地の大人用・児童用文書を陳列し、フェスティバル終了後これらの本はウィロウ・ラン・スクールズ (Willow Run Schools) に寄贈されました。2007年度のアム・アーバー・ブックフェアのストリートフェアは5月19日に開催されます。詳細は <http://aabookfestival.org> をご覧ください。



2006年のアン・アーバーブックフェスティバルで陳列された本と楽譜



2006年MJQB開会式



ミシガン・ジャパン・クイズ・ボウル

13年前、ミシガン州の日本語教師の一人が日本語を勉強している幼稚園から高校生のためにクイズ・ボウル・コンペティションを開催しました。ミシガン州の「ジャパン・ボウル」は、高校生の日本語レベルをテストするため、そして全米で日本語の勉強を奨励するために開始されたナショナル・ジャパン・ボウル (<http://www.us-japan.org/dc/education/JBpage.html>) の予選として始まりました。当初から、ミシガン州ではジャパン・ボウルのコンペティションに小学生と中学生も含めるなどして範囲を広げ、低年齢層の学生に対しても日本語への関心をそそりました。現在では、コ

ンペティションはミシガン・ジャパン・クイズ・ボウル (MJQB) と改名され、全国大会の予選というよりも、K-12 (幼稚園から高校生) の日本語を学ぶ学生がお互いに会う機会を提供し、親善的な(ただし同時に真剣な)競争が行われると同時に日本の文化に接する場となっています。

二年継続して、CJSはミシガン大学セントラル・キャンパスにあるモダンランゲージビル (Modern Languages Building) でこのイベントを主催し、300人以上の学生が四つの範疇の首席を目指して競いました。その他にも学生、家族や先生のための文化的催し物がCJSと日本学生協会 (Japan Students Association) により提供されました。MJQBとJSAの日本文化祭が同日に開催されたのは今年が初めてで、MJQB参加者は幅広い催し物に参加でき、文化祭への参加者も増す結果となりました。

2007年のミシガン・ジャパン・クイズ・ボウルもCJSの主催により3月24日に開催されます。詳細はジェーン・オザニッチ (Jane Ozanich, jozanich@umich.edu) までご連絡ください。

ティーンズ、怒りとロックンロール: 青春映画、今と昔 2006年夏の映画シリーズ

CJSの夏の映画シリーズには、新旧の映画がミックスされました。シリーズの皮切りは山下敦弘監督によるコメディ、ドラマそれに音楽がミックスされた2005年の映画、「リンダリンダリンダ」で、観客に深い余韻を残しました。シリーズで他に多数の観客を動員した作品としては、岩井俊二監督のショッキングであるとともに美しく撮影された「リリイ・シュシュのすべて」があげられます。他の四作も、観客に過去50年間の日本の若者文化を異なる視点から捉え、垣間見させてくれました。

TEENS, ANGST & ROCK 'N' ROLL
Seishun Eiga
青春映画、THEN AND NOW

Cool clothes, warden sweaters, anti-authoritarian rage, loud guitars - seishun eiga (or youth films) have been a staple of Japanese cinema since the 1950s, when they shook up censors and rejected the values of the generation before them. The details may have changed since then, but a restless, raucous spirit remains in these the movies chosen for the Center for Japanese Studies' summer film series.

リンダリンダリンダ
リリイ・シュシュのすべて
狂った果実
けんかい
風を呼ぶ男
キンリッター

ALL films are FREE, open to the public, and are in Japanese with English subtitles.
Films start at 7PM in the Astorick Auditorium (Coch Hall, 611 Tappan Street).

July 14 - LINDA LINDA LINDA (Noburo Yamashita, 2005, 114 min.)
Four girls from different backgrounds head to summer camp for their high school's annual festival. In order to create a new peak power chord for their school's band, they must overcome their differences. Yamashita's delicate touch comes. "Yamashita makes the banter of campers of the three movies pop along naturally." - Geoff Proulx, Toronto Star

July 21 - KIDS RETURN (Kiyau Anzai) (Shunji Iwai, 2004, 117 min.)
Regarding the limited edition that Tokyo suburb has given them, two best friends (Shinkai) get caught up in the world of love and violence in the love-movie thriller and some say some autobiographical - has been accepted "Best" (Spike Jonze, "One of Iwai's most recent films, about of cheap sentiment." - Cineart about BBC

July 28 - A STORMING DORMER (AKASHI O POSHI OKORO) (Shunji Iwai, 1997, 115 min.)
The epidemic of rebellious '70s youth (and teacher of Chirashi) and teacher (Shunji Iwai). The film's subtle touch - Japanese theater with his characteristic rock 'n' roll style and that they can attribute to his father's production, he plays a character struggling to manage the complexities of his family - as well as the demands of love life.

August 4 - ALL ABOUT LUY CHOU-CHOU (KIRI SHIONJI NO DANZEN) (Shunji Iwai, 2001, 116 min.)
A love has been in wait to escape the strict control of your high school (Japan) by changing his devotion to a sometime one in his beloved one. Chirashi's touch, elegant and touching tale of love romance. "This is the epitome of Chirashi's: 'top image' love into (Shunji Iwai)

August 11 - CRAZED FRUIT (KURUMI KAKUSHI) (Nozomu Miyake, 1991, 98 min.)
Japan got its very own Rebel Without a Cause with this somewhat surreal - and controversial - tale of teenage rebellion and warlike but working his father and the girl who falls in love. "Crazed Fruit" dealt through the elegant music scores of traditional Japanese cinema. "Remembering an older cinema cinema as all consuming rebellion." - Chuck Shattner

August 18 - FIGHTING 6647 (KIKKAU ENJOI) (Junji Sakai, 1969, 99 min.)
Political satire and melodrama has had some music. Director Sakai's portrait tale of an otherwise light club when they are that rock song with love, music and laughter from both the punky rock. "This is a great record about an rebel that has an attitude like of the band that gave rise to (Sakai) in 1970's Japan." - Japan Show, Midnight Eye

Sponsored by the Center for Japanese Studies, The University of Michigan • 734.764.6267 • <http://www.umich.edu/~cjs/> and <http://www.umich.edu/~cjs/>

The film series is made possible with funding from a USCJF Film Fund, the Japan Foundation, Mitsui Fud. Inc., Cultural Cinema, Parkview Films, Japan Film, and NHK-TV.

ポスターデザイン: 世似子シモネス

フィリップ・ピオジュール(同志社大学)は、ブルース・ベルザウスキーとともにミシガン大学交通研究所 (UMTRD) 所属の自動車学部で研究を継続。この共同研究によりピオジュール氏は2006年9月に客員教授として任命されました。ピオジュール教授はベルギー王国の京都、滋賀県、奈良そして三重県への名誉領事としても任命されています (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/i/annai/europe/belgique.html>)。

マイク・フェターズ(家庭医療学)は、昨年度日本で多数の講演をしました。まず12月には名古屋大学一般診療学部で講演、続いて滋賀医科大学そして三重大学医学部で講演を行い、2月には金沢医科大学病院で「患者のケアとクリニカル・マネジメント — 一般家庭より初期研修への臨床珠玉」と題される発表を行った後、3月にはさらに大阪にて第33回年次日本集中治療医学会学術集会以「集中治療医学と家庭医療学:よりよい治療を目指して」と題された講演を行いました。

アイリーン・ガッテン (CJS非常勤研究員)は、4月のサンフランシスコでのアジア学会年会で「Mapping the Journey through Texts: Courtiers on the Road in Pre-Modern Japan (テキストによる道程のマッピング:前近代日本における廷臣の旅)」について討議するパネルのメンバーの一人として「Courier in the Countryside: Pilgrimage Travel in Eleventh-Century Japan (地方廷臣: 11世紀日本の巡礼)」という題の論文を発表しました。また、もともと「モニュメンタ・ニッポニカ」に掲載された平安時代の芳香についての論文、「A Wisp of Smoke: Scent and Character in The Tale of Genji (一条の煙: 源氏物語における香りと登場人物)」がジム・ドロブニック編集によるアンソロジー「The Smell Culture Reader (香り文化読本)」に抜刷されました。

ウィリアム・マルム (音楽・民俗音楽学名誉教授)は、グローバル・フォーラム会議(芸

術を通じた文化対話)での講演を依頼され、11月に韓国の韓国精神文化研究院で講演を行いました。

ゲイル・ネス(社会学名誉教授)は神戸市のアジア都市情報センター (<http://www.ajuick.org>)と引き続き共同研究を行います。アジア都市情報センター (AUICK)は、アジアの九都市と共同研究を行うとともに神戸の都市管理者を育成しており、またニュースレターを出版しアジアの都市圏問題に関するウェブサイトを維持しています。AUICKに加盟している都市はパキスタンのファイサラバッド市、インドのチェンナイ市、バングラディッシュのチタゴン市、マレーシアのクアランタン市、タイのコンケン市、ベトナムのダナン市、インドネシアのスラバヤ市、フィリピンのオロンガポ市、そして中国のウェイハイ市です。AUICKは国連人口基金 (UNFPA)と神戸市との協力により1989年開設されました。

さらにネス教授は、東京都の新しい日本大学大学院総合科学研究所 (ARISH)で「人口、開発と環境変換」と題されたセミナーを秋学期に提供しました。

ジェニファー・ロバートソン(人類学)は、現在アメリカ人類学協会の東アジア部門で企画委員(任期: 2006~2009年)を務めています。ロバートソン教授は近年、イスラエルと日本での血のイデオロギーに関する研究でイスラエルのテルアビブ大学でのフルブライト研究助成金(2007年4月~8月)を、また日本におけるヒューマノイドロボット開発研究に対するCJS教員研究補助金(2006年夏と2007年冬)の二つの研究助成金を受けています。また、最近には『Critical Asian Studies (Routledge)』の共同編集に招聘されています。

ロバートソン教授の近刊予定の著作には2006年「思想」(岩波書店)掲載の「Eugenic Colonialism: Japanese Blood Ideology (優生学的植民地主義: 日本の血のイデオロギー)」、Asian Anthropologies Series (アジア人類学シリーズ)の山下晋司

とジェリー・イーズ編集による『Cultural Resources (文化資源)』(オックスフォード出版社)に掲載される「Blood as a Cultural Resource (文化財としての血)」、そして『Body and Society (体と社会)』の準備として『Robosapiens Japonicus: Humanoid Robots, Cyborg Eugenics, Kinship, and the Future Japanese Family (ロボサピエンス・ジャポニカ: 人型ロボット、サイボーグ優生学、親族関係と未来の日本家族)』があります。

ルース・ツォファール(女性学、比較文学)は、女性学と比較文学を組み合わせた新規の職務に就きました。彼女の著作『The Stains of Culture: An Ethno-Reading of Karaite Jewish Women (文化の汚点: 民族的見地から見たカライトユダヤ女性)』は、2006年1月にウェイン大学出版局の Jewish Folklore and Anthropology (ユダヤ民話と人類学)の Raphael Patai Series (ラファエル・パタイ・シリーズ)として出版されました。また、論文「Baghdad-Tel Aviv: Roundtrip to the Promised Land (バグダッドからテルアビブへ: 約束の地への周遊)」が Anthropological Quarterly (人類学クォーターリー)の Social Thought and Commentary Section (社会思想と解説欄)に、また「“A Land that Devours its People:” Mizrahi Writing from the Gut (人をむさぼる土地: 腹の底からのミズラヒ文献)」が Body & Society (体と社会), Vol.12, 2:25~55 (2006)に掲載されました。

ツォファール教授は、2005年夏に戦争と平和記念館に関するロバートソン教授(人類学)との共同プロジェクトに従事するためにテルアビブと東京に滞在しました。本研究は日本研究センターと Frankel Center for Jewish Studies (フランケルセンター、ユダヤ研究所)による共同支援によります。ロバートソン教授とツォファール教授は共同で新しいコース「Tokyo-Tel Aviv: Nation, City, Identity (東京からテルアビブへ: 国、市とアイデンティティ)」を2006年冬季教授しました。

また、ツォファール教授は秋学期の研究休暇中（2006年）に二冊目の著書『Cannibal Ideology: Sexuality, Ethnicity and Colonialism in Hebrew Cultures (食人観念: ヘブライ文化における性的指向、民族性と植民地主義)』（カリフォルニア大学出版局）を執筆しました。

ジョナサン・ズウィッカー（アジア言語文化学）の著書、『Practices of the Sentimental Imagination: Melodrama, the Novel, and the Social Imaginary (情緒的想像の実践: メロドラマ、小説と社会的空想)』がハーバード大学アジアセンターからこの秋出版され、レセプションがアン・アーバーのシャマン・ドラム・ブックストアで10月12日に開かれました。その他の出版物としては「The Long Nineteenth Century of the Japanese Novel (日本小説の長い19世紀)」と「Japan, 1850~1900」がこの夏に The Novel, Volume One: History,

Geography, and Culture (プリンストン大学出版局フランコ・モレッティ編集)に掲載されました。また、新著『Stage and Spectacle in an Age of Print: Drama and Cultural Consumption in Nineteenth Century Edo (印刷の時代における舞台と見世物: 19世紀江戸のドラマと文化消費)』の研究に対して、Rackham Fellowship (ラッカム奨学金) と東京でのリサーチのための援助金がズウィッカー教授に授与されています。

2006~2007年客員研究員

花井俊介 2006~2007年度のCJS客員研究員は、早稲田大学の花井俊介助教授です。同氏は日本の事業・経済史、コーポレート・ガバナンス、および比較産業システムなどの研究を行っています。アン・アーバーでの滞在中は、日本とアメリカの企業の投資活動と日本における戦前の絹産業に関する研究を行います。

CJS卒業生・学生の最新情報

2006年の春に卒業したCJS大学院生は、**シャン・チバス**、**ジョシュワ・マクブライド**それに**ノリコ・ヤマグチ**の三人です。ジョシュワ・マクブライドは現在JETプログラムで日本に滞在中です。ノリコ・ヤマグチはこの夏にコンコルディア言語村で日本語を教え、秋からシカゴ大学で博士号課程を始めました。

マーニー・アンダーソン（歴史博士号2005年卒）は、スミスカレッジの歴史学部で教鞭をとっています。

アレックス・ベイツ（ALC博士号2006年卒）は、博士論文「Fractured Communities: Class and Ethnicity in Representations of the Great Kanto Earthquake (破碎された地域社会: 関東大震災に象徴される階級と民族性)」の審査に合格し、この秋からペンシルバニア州カーライル市のディッキンソン大学で日本語と文化の教鞭をとります。

アン・クーパー=チェン（CJS修士号1969年卒）の新著『Global Entertainment Media: Content, Audiences, Issues (世界娯楽メディア: 内容、視聴者と問題)』が2005年6月に出版されました。本著は世界のマスメディアを包括的にまとめた最初の本の一つです。詳細は http://www.erlbaum.com/cooper_chen をご覧ください。

ヘザー・リトルフィールド（CJS修士課程）は現在、コンボで民事・軍事局代表を務めており、過去6ヶ月間彼女の組織と市民による合同プロジェクトを調整し進展させています。彼女は組織を通じてアルバニア人とセルビア人の二つの異なった民族の共同地域内で学校を開く援助をし、両民族の子供が同一のクラス内で「英語と友好プログラム」を受けられるようにしました。その他にも、地域社会に利益をもたらすようないくつかの造園プロジェクトに従事しています。

齋藤弘久（社会学博士課程）は現在、東京で勤務しています。

2006~2007年度教員研究補助金発表

日本研究センターの2006~2007年度教員向け研究補助金の受賞者が決定しました。本補助金は日本社会または文化に関する研究を行っている個人または団体に対して授与されます。本年度の受賞者とプロジェクト内容は以下の通りです。

ケビン・カー助教授 (美術史およびアジア言語文化学部) には、「Presenting the Prince: Envisioning the Life of Shōtoku in Medieval Japanese History (王子の解明: 日本中世期における聖徳太子の生涯の想像)」プロジェクトの補助金が授与されました。本プロジェクトは、日本の王子である聖徳太子 (574-622) の死後約七世紀後、中世時代に作成された聖徳太子の生涯を描写する数個の掛け軸を分析するものです。カー教授はこの補助金を受けて日本の寺院や博物館を訪問、収集品を観察し研究資料を収集します。

ジェシカ・フォーゲル教授 (ダンス学部) には「Garden Dances: A Japanese/American Botanical Dance Performance Project (庭園のダンス: 日本およびアメリカの植物ダンス演技プロジェクト)」のための補助金が授与されました。このプロジェクトでは日本の舞踏家をミシガン大学に招聘し、2007年2月、マイア植物園の100年祭に温室で合作のダンスパフォーマンスが行われます。また日本の舞踏家のミシガン大学での研修期間中、フォーゲル教授と共同で2007年6月に京都の榮運院で予定されるパフォーマンスのためのダンスワークショップが行われます。

ケン・イトウ准教授 (日本文学) には「Status and Class in Meiji Fiction (明治文学における地位と階級)」プロジェクトのための補助金が授与されました。日本における社会階級は明治時代に新旧階級の特筆すべき組み合わせにより揺るぎました。このプロジェクトでは、明治文学における、特にその地位と階級の象徴表現を通じてこの状況がいかに追求され明確化されたかを論議に主眼を当てて説明することが意図されています。

増澤知子教授 (歴史・比較文学学部) には「Modernity, University, the Science of Religion (現代、大学、そして宗教学)」プロジェクトのための補助金が授与されました。これは増澤教授とそのほか数人の日本の宗教学者との共同出版プロジェクトで、その目的は (1) 近代日本における宗教の学術的研究の発展を西欧、アメリカおよびそのほかの地域における発展と比較すること、(2) 拡張しつつある「宗教」の近代論議の形成とその宗教観念が特に国外から輸入された地域における「近代化」の文化政策に関する批評文学への貢献、そして (3) 非ヨーロッパ語による現代の宗教研究を英語圏で紹介することの三つです。

阿部マーク・ノース准教授 (映画・文化学部) には現在進行中の三つのプロジェクト、(1) 「小津安二郎と映画の詩学」の電子印刷、(2) 日本の成人映画の包括的研究、そして (3) 映画と翻訳の関係に関する出版、について補助金が授与されました。

ジェニファー・ロバートソン教授 (人類学) には二部からなるパイロットプロジェクト「標準化された人間と人間ロボット」のための補助金が授与されました。この研究では、人間社会を向上し拡張するための知性的で審美的に優れたアンドロイドを創造する目的で、人間ロボットを最新の優生学の様相および人類学テーマとして扱っています。

高橋悟助教授 (美術・デザイン学部) には「Security Blanket for Ninchi-shō and Hikikomori (認知症と引きこもりのためのセキュリティ・ブランケット)」プロジェクトに対して補助金が授与されました。日本では高齢化する人口と出生率の低下が深刻化しており、「認知症 (高齢のアルツハイマー病患者)」と「引きこもり (社会との絆を全て断ち、部屋に6ヶ月以上引きこもっている若者)」の社会復帰が社会問題となっています。このプロジェクトでは、アルツハイマー病患者と引きこもりの若者を一箇所に集め、芸術制作を通じて世代を超えた共同体と意思の疎通を促進します。

竹中晶子助教授 (美術史学部) およびミシガン大学フェローズ協会博士研究員には「The Museumification of Memories: Suffering and Sacrifice on Display in Contemporary Japan (記憶の博物館化: 現代日本の苦悩と犠牲の展示)」著作のための補助金が授与されました。本プロジェクトでは、アジア太平洋戦争中に戦死した人にささげられた記念碑と記念館の調査を通じ、近代・現代日本における戦死者の記念碑化のカルチュアを追求します。

吉浜美恵子准教授 (社会福祉) には「Masculinities and Violence Against Women in Japan (日本における男らしさと女性に対する暴力)」プロジェクトのための補助金が授与されました。このプロジェクトでは、アメリカと日本の研究者と活動家が共同で現代日本における各種の男らしさの原型を調査し、顕著な原型と女性に対する暴力やその他の軍国主義などの攻撃的な行動との関係を追及します。

2006~2007年度 CJS学生奨学金

2006学年度II語学奨学金:

ダニエル・ココラン (人類学博士課程)
ジェイソン・ハーランズ (ALC博士課程)
ブルック・レースラム (CJS修士課程)
クリスティーナ・バシル (ALC博士課程)

同窓会奨学金:

今田俊恵 (心理学博士課程)
猿谷弘江 (社会学博士課程)

CJS基金奨学金:

マイケル・アーノルド (CJS修士課程)
趙秀美 (チョ・スミ) (人類学博士課程)
シェリー・ファンチェス (歴史学博士課程)
アンドレア・ランディス (ALC博士課程)
デボラ・ソロモン (歴史学博士課程)
鈴木真理 (CJS修士課程)

メロン財団プライズ奨学金:

ブライアン・ダウドル (ALC博士課程)
鎌田伊佐生 (経済学博士課程)
アンドレア・ランディス (ALC博士課程)

2006年度夏季FLAS奨学金:

エリカ・アルパート (人類学博士課程)
モーリー・デジャルダン (ALC博士課程)
モニカ・キム (歴史学博士課程)
シャロン・リー (アメリカ文化博士課程)

お知らせ

ミシガン大学の東アジアセンター、タイトルVI助成金を受理

ミシガン大学の東アジアセンターは、7月に教育省から2006~2010年度タイトルVIナショナル・リソース・センター(NRC)としての助成金再支給決定の通知を受理しました。ミシガン大学の東アジアNRCは、CJSとミシガン大学中国研究センターおよびコリア研究プログラムから構成される共同機関です。援助金は、語学教師、ミシガン大学のアジア図書館、K-12(幼稚園~高校)アウトリーチ活動、ヌーン・レクチャー、フィルムシリーズやその他の東アジアに関連したプログラムに使用されます。NRC援助金は全米で17の機関に授与されており、ミシガン大学の東アジアNRCはその一つです。

日本箱 — ジャパンキットの再編成

過去10年間、CJSは全米の教育者に無料でジャパンキットを提供してきました。ジャパンキットには実物教材や本などの教育資料が含まれており、当初はレベル分けされていました。この夏、ミシガン州の日本語教師のアドバイスにより、キットは家庭・季節行事、学校・大衆文化、そして日本の社会(歴史や芸術などを含む)の三つの範疇に再編成されました。再編成されたキットは、教師に対して無料で貸与されます(25ドルの払戻可能な保証金が課せられます)。詳細はCJSアウトリーチコーディネーターのG・P・ウィットピン(wittevee@umich.edu)にご連絡ください。

CJSの新しいURLとウェブサイト構築中

8月1日付けでCJSの新しいURLが<http://ii.umich.edu/cjs/>に変わりました。ウェブサイトも、この冬から新しい様式に変わる予定です。

ミシガン大学の家庭医療学部に医師が二人着任

新しい日本語堪能な医師が二人、ミシガン大学の家庭医療学部と日本家庭健康プログラム(<http://www.med.umich.edu/jfhp/>)に就任しました。

藤岡洋介(医師・博士) 家庭医療学部の家庭医兼臨床教官で、ドミノ・ファームズの日本家庭健康プログラムの臨床医兼教育者でもあります。学術的関心は医学教育と日米医学生・医師交換研修です。藤岡医師は、出産前、新生児、小児、青年期、成人男子、成人女子、高齢者への診察や全年齢層に対する予防ケアを提供します。また、胃がんの早期発見のための経鼻的胃内視鏡検査に臨床的関心があります。

カール・ルー(医師) 家庭医療学部の家庭医兼臨床教官で、教鞭をとるとともに主に家庭医療の一部として日本家庭健康プログラムの患者を診察します。ルー医師は、出産前、新生児、小児、青年期、成人男子、成人女子、高齢者への診察や全年齢層に対する予防ケアを提供します。臨床的関心は、応急手当医療です。また、日本の医師や医学生が日本において家庭医療を新しい専門分野として確立するための援助をしています。

ミシガン大学の学生がスピーチコンテストで上位入選

3月24日、ミシガン大学の学生が在デトロイト日本国総領事館、デトロイト日本商工会、そしてデトロイト日米協会主催による日本語スピーチコンテストで第一位、第二位、そして名誉賞を獲得しました。第一位のアラン・ミシュラーは江森祥子ALC講師の下で日本語を勉強し、一週間のホームステイを含む日本往復航空券が授与されました。他の上位入賞者はヒージン・ジュン(第二位)とリエン・ヨン(名誉賞)でした。本コンテストでは、まず原稿と録音テープ



左から渡辺康雄(主審委員)、ヒージン・ジュン、アラン・ミシュラー、リエン・ヨンそして若山祐治(JBSD文化部会会長、デンソー・インターナショナル・アメリカ部長)。

を提出した100人あまりのミシガン州の学生から三人の入賞者を含む12人の候補者が予選選考に選出されました。12人の候補者のうち、上記の三受賞者を含め受賞を受けたのは五人でした。

RC日本語テーブル

2005~2006学年度中、30人以上のボランティアがレジデンシャル・カレッジで日本語テーブルに参加しました。会話はまず訪問者が学生と簡単な情報交換を日本語で行うことから始まり、徐々に習慣やポップカルチャーなどの詳細の話し合いに移りました。ボランティアは、生徒に実際の日本語と文化に接する機会を提供するうえでランゲージ・テーブルの貴重な存在です。2006~2007学年度もボランティアを現在募集中です。詳しくはプログラム講師の佐藤哲也(satoot@umich.edu)にご連絡ください。

アジア図書館旅費補助金

2006年7月1日から2007年6月30日までの間にミシガン大学アジア図書館のコレクションの利用を希望する他機関の日本研究者を対象に、旅費、宿泊費、食費、コピー代として最高700ドルの補助金を提供しています。図書館に関する詳細情報につきましては

9月

13日 レセプション: トヨタ招聘客員教授川人貞史教授の歓迎レセプション。午後4時~6時、インターナショナル・インスティテュート・ギャラリー。

15日 無料日本映画上映*: 『電車男』村上正典監督、2005年、101分。

22日 無料日本映画上映*: 『月とチェリー』タナダユキ監督、2004年、82分(強い性的描写を含みます)。

28日 講演*: 「Translation, Style, and Gender Representation in the Meiji Literary Field (明治文学における翻訳、スタイルそして性別描写)」スタンフォード大学アジア言語学部助教授インドラ・リービ。

29日 無料日本映画上映*: 『オープンアート: アニメーション』別々の監督による短編映画シリーズ。2004~2005年、50分。

10月

5日 講演*: 「Ethnography as Self-Reflection: Japanese Colonial Anthropology in Korea (自省としての民族学: 植民地朝鮮での日本人類学)」ノーザンイリノイ大学歴史学部準教授兼大学課程ディレクター、テイラー・アトキンズ。

6日 無料日本映画上映*: 『映画監督になる方法』松梨智子監督、2005年、94分(強い性的描写を含みます)。

12日 講演*: 「Japan and the Politics of the Nobel Prize (ノーベル賞政治と日本)」オハイオ州立大学近代日本歴史学教授、ジェームス・パーソロミュウ。

13日 無料日本映画上映*: 『BMK (ビッグ・マグナム・キラー)』ミナ・ヨネザワ監督、2005年、8分および『Visions of Frank』別々の監督による短編映画シリーズ。2003~2005年、48分。

19日 講演*: 「Music in the Kabuki Theater (歌舞伎劇場の音楽)」ミシガン大学音楽学名誉教授、ウィリアム・マルム。

20日 金曜日無料アジア映画上映: 『Visions of Frank』別々の監督による短編映画シリーズ。2003~2005年、48分。午後12時、1636室 (SSWB)。

20日 無料日本映画上映*: 『モスリン橋の袂に潜む』羽野暢監督、2006年、106分。

26日 講演*: 「The Other Self: Japan and the Critique of American Individualism (もう一つの自己: 日本とアメリカ式個人主義への批判)」プリンストン大学東アジア研究学部助教授、エミイ・ボロボイ。

27日 無料日本映画上映*: 『ヒモのひろし SEXマシン卑猥な季節』田尻裕司監督、2005年、64分(強い性的描写を含みます)。

11月

2日 講演*: 「Outcasts, Treaty Ports, and Liberation (明治初期の開港場と「解放令」)」ノースキャロライナ大学チャペル・ヒル歴史学準教授、ダニエル・ボッツマン。

3日 無料日本映画上映*: 『Ski Jumping Pairs: Road to Torino 2006 (スキージャンプ・ペア-Road to Torino 2006-)』真島理一郎・小林正樹監督、2005年、82分。

9日 講演*: 「Research Jitters: The Impact of Pacific War-Time Experiments on Japan's Current Debates About Bioethics (リサーチの不安: バイオエシックスに関する日本における最新の議論に対する太平洋戦争時の実験のインパクト)」ペンシルバニア大学日本研究学部教授、ウィリアム・ラフレール。

10日 無料日本映画上映*: 『笑の大学』星護監督、2004年、121分。

16日 講演*: 「The Rules Revisited: Medieval Monastic Guidelines for Interacting with the Opposite Sex (再訪された規則: 異性との交流に対する中世僧院規律)」サザンカリフォルニア大学宗教・東アジア言語文化学部助教授、ローリ・ミークス。

30日 ヌーン・レクチャー講演*: 「Japan-U.S. Cultural Exchange: Reflections on a Career Spent In-Between (日本とアメリカ文化交流: 両国におけるキャリアを振り返って)」ボストン日本協会会長、ピーター・グリリ。

30日 ドキュメンタリー映画と討論会: 『光と音の詩 武満徹の映画音楽』シャーロット・ズワーリン監督、1994年、58分。映画の共同制作者、ピーター・グリリによる紹介と討論。午後7時、1636室 (SSWB)。

2007年1月

6日 特別イベント: お餅つき。午後1時~4時、インターナショナル・インスティテュート・ギャラリー。

17日 ワークショップ: 「Compiling/Editing and Critically Evaluating Western-Language Bibliographies on Japan and on Korea: A Bibliographer's Perspective and Personal Experience (日本と韓国に関する西洋語参考文献編集と評価)」アジア研究参考文献出版部ビブリオグラファー兼編集者兼コンサルタント、フランク・ジョセフ・シュールマン。

25日 講演*: 題未定。ミシガン大学美術史学およびアジア言語文化学助教授、ケビン・カー。

* 講演はすべて、別途通知のない限り、1636号室にて正午に開始されます。ヌーン・レクチャーは米国教育省からの「タイトルVI」助成金を受けています。

** 映画上映は全て、ローチ・ホール (611 Tappan Street, Ann Arbor) のアスクウィズ・オーデトリウムにて午後7時に開始されます。フィルム・シリーズは米国教育省からの「タイトルVI」助成金を受けています。

最新情報については <http://www.i.umich.edu/cjs/> をご覧ください。

お知らせ

第9ページから続く

では、<http://www.lib.umich.edu/asia/>をご覧ください。または図書館アシスタント(734-764-0406)にご連絡ください。

関心のある方は、申請書、研究およびコレクションの利用の必要性に関する簡単な説明(250ワード以内)、利用を希望するリソース・リスト(応募前に、利用希望のリソースが同図書館にあるかどうかをオンライン目録でご確認ください)、現行の履歴書、予算、旅程案を、当センター宛に提出してください。

当センターでは、電子メール(umcjs@umich.edu)、または以下の住所宛の郵便での申請を、2007年5月31日まで受け付けます。

Asia Library Travel Grants
Center for Japanese Studies
Suite 3640, 1080 S. University
The University of Michigan
Ann Arbor, MI 48109-1106

近況をお知らせください

CJSでは、教員、学生、卒業生の皆様全員からの近況のご報告をお持ちしていません。umcjs@umich.edu宛電子メール、または右記の宛先まで郵送またはファックスにてご連絡ください。

CJS卒業生と元客員教員・研究員の皆様へ

CJSでは、卒業生と元客員教員・研究員によるミシガン大学CJSでの経験を記した短い記事を募集しています。ご関心がある方はumcjs@umich.eduまでご連絡ください。

オフィスを移動しました!

第1ページから続く

ウェル(David Bordwell)の『Ozu and the Poetics of Cinema(小津安二郎 映画の詩学)』を掲載しました。本書は阿部マーク・ノーネス教授(Abé Mark Nornes)によるモーション・ピクチャーズ・リプリント・シリーズのウェブページに掲載されている

他の著作物や、出版会による小津のモノグラフで吉田喜重著の『Ozu's Anti-Cinema(小津安二郎の映画)』を補足するものです。さらに、1969年~1973年にかけて発行された、デービッド・グッドマン(David G. Goodman)編集による(新しい序文付きです!)機関誌『Concerned Theatre of Japan(日本映画館)』も現在サーチ可能フォーマットでアクセスできます。

最も新しいモノグラフ・シリーズはポール・アトキンズの『Revealed Identity: The Noh Plays of Komparu Zenchiku(解明されたアイデンティティ: 金春禅竹の能)』です(第55巻、ISBN 1-929280-36-X(クロス装丁)60ドル、Xiii + 293ページ、白黒挿絵30、カラー挿絵2)。本書は15世紀日本の能役者、能作者かつ能楽論者であった金春禅竹の能の最初の包括的研究書です。金春禅竹は岳父の世阿弥元清(1363~1443)に教導を仰ぎ、生前能役者として名声を受けましたが、能楽論者としても近代に再発見されました。金春禅竹は日本の戯曲伝統において主要な劇作家でもあり、その佳曲は現代になりようやく作品にふさわしい注目を集めるようになりました。

モノグラフ・シリーズへの掲載を待つ作品は多数あり、次に掲載が予定されている二つの作品は遠藤織枝の『A Cultural History of Women's Writing(女のことばの文化史)』とキア・ダビッドソンの『A Zen Life in Nature: Musô Soseki in His Gardens(自然の中の禅: 庭園の夢窓疎石)』です。価格と詳細、それにそのほかの表題はセンター出版会のウェブサイトをご覧ください。

最後に、殿村ひとみ、アン・ウォルノール、そして脇田晴子の共同編集による『Women and Class in Japanese History(日本史における女性と階層)』がクラス用にペーパーバックで購入可能となったことのお知らせします(ISBN 1-929280-35-1、26ドル)。

日本研究センター出版会総編集長
ブルース・ウィロビー
(Bruce Willoughby)

DENSHO

伝書



ミシガン大学日本研究センター
Center for Japanese Studies
University of Michigan
1080 S. University, Suite 3640
Ann Arbor, MI 48109-1106
電話: (734) 764-6307
ファクシミリ: (734) 936-2948
電子メール: umcjs@umich.edu
ウェブサイト: <http://www.i.umich.edu/cjs/>

所長: マーク・D・ウエスト
アドミニストレーター: 深澤ゆり
プログラム・アソシエート: ジェーン・オザニッチ
学務コーディネーター: 高田あづみ
アウトリーチ・コーディネーター: G・P・ウィットピン
オフィス・アシスタント: サンドラ・モラスキー

ミシガン大学日本研究センター出版会
Center for Japanese Studies
Publications Program
University of Michigan
1007 East Huron
Ann Arbor, MI 48104-1690
電話: (734) 647-8885
ファクシミリ: (734) 647-8886
電子メール: cjspubs@umich.edu
ウェブサイト: <http://www.i.umich.edu/cjs/publications>

出版会ディレクター: 殿村ひとみ
総編集長: ブルース・ウィロビー

CJS協議員: ケビン・カー、北山忍、岡まゆみ、
ジョナサン・ズウィッカー、メアリベス・グレービル
(職権上)、仁木賢司(職権上)、マーク・D・ウエスト
(職権上)

Regents of the University of Michigan: David A. Brandon, Laurence B. Deitch, Olivia P. Maynard, Rebecca McGowan, Andrea Fischer Newman, Andrew C. Richner, S. Martin Taylor, Katherine E. White, Mary Sue Coleman (ex-officio)

The University of Michigan, an equal opportunity/affirmative action employer, complies with all applicable federal and state laws regarding non-discrimination and affirmative action, including Title IX of the Education Amendments of 1972 and Section 504 of the Rehabilitation Act of 1973. The University of Michigan is committed to a policy of non-discrimination and equal opportunity for all persons regardless of race, sex, color, religion, creed, national origin or ancestry, age, marital status, sexual orientation, disability, or Vietnam-era veteran status in employment, educational programs and activities, and admissions. Inquiries or complaints may be addressed to the University's Director of Affirmative Action and Title IX/Section 504 Coordinator, 4005 Wolverine Tower, Ann Arbor, MI 48109-1281. 734.763.0235, TDD 734.647.1388. For other University of Michigan information, call 734.764.1817.

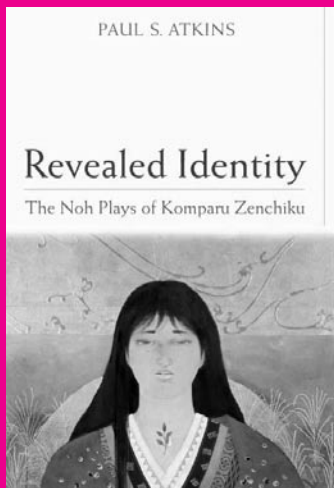
「伝書」編集人: ジェーン・オザニッチ
「伝書」翻訳: 村上まどか
「伝書」デザイン: ワグナー・デザイン
「伝書」制作: プリンテック



ミシガン大学
日本研究センター

2006年秋

日本研究センター出版会新刊書



『Revealed Identity: The Noh Plays of Komparu Zenchiku (解明されたアイデンティティ: 金春禪竹の能)』
ポール・アトキンズ著



『A Zen Life in Nature: Musō Soseki in His Gardens (自然の中の禅: 庭園の夢窓疎石)』
キア・ダビッドソン著

DENSHO

伝書



ミシガン大学日本研究センター
Center for Japanese Studies
University of Michigan
1080 S. University, Suite 3640
Ann Arbor, MI 48109-1106